知ってトクする節約術 第4回

通信費の節約のヒント
――大手キャリアと格安SIMの比較

風呂内 亜矢
1級ファイナンシャル・プランニング技能士
【ふろうち・あや】
26歳・独身・貯金80万円でマンションを衝動買いし、慌てて貯蓄とお金の勉強をスタートする。現在は夫婦で4部屋の物件を所有し、家賃収入も得ている。テレビ、新聞、雑誌のほか、書籍でも積極的にお金に関する情報を発信している。最新刊は『ほったらかしでもなぜか貯まる！』（主婦の友社）。

スマホの通信費、いかに抑える？

総務省統計局のデータによると、総世帯の1か月あたりの通信費の平均は、2000年が8694円、2017年が1万1100と3割近く増加しています。同じく総務省の通信利用動向調査（2017年調査）によると、スマートフォンの保有率（世帯）は2010年の9・7％から2017年の75・1％と爆発的に上昇しています。

今回は、存在感を増すスマートフォンを便利で快適に使いつつ、通信費を抑える方法について考えてみます。

大手キャリアはMNO、格安通信会社はMVNO

現在、スマートフォンを利用する場合の通信会社は、docomo、au、Softbankなどのいわゆる「大手キャリア」と、mineo（マイネオ）、UQmobile、BICSIM（ビックカメラ）、イオンモバイルなどの「格安通信会社」の大きく2つの選択肢があります。

大手キャリアはMNO（Mobile Network Operator：移動体通信事業者）と呼ばれ、自社で通信インフラの設備投資を行い、通信サービスを提供しています。一方、格安通信会社はMVNO（Mobile〝Virtual〟Network Operator：〝仮想〟移動体通信事業者）と呼ばれ、MNOに回線を借り、使用料を支払ってサービスを提供しています。

MNOは初期投資に費用がかかっているため、料金は高くなります。**MVNOは**初期投資はなく、利用料の負担で事業を提供できるため、**通信費単体を比べると、安価**になります。借りている回線の容量に限りがあるため、MVNOではお昼や夕方など、**インターネットを使う人が増える時間の通信速度は遅くなる**ことが多いです。

家庭や職場に通信環境があり、Wi-Fiなどでインターネットを楽しめる場合、混み合う時間帯にMVNOを使った通信をする必要性は低く、MNOからMVNOへの切り替えは比較的挑戦しやすいでしょう。私自身もテスト的に1か月、LINEモバイルを利用してみましたが、通信速度にストレスを感じる瞬間はありませんでした。

ただし、通信費を比較する場合、通信の料金だけでなく、端末代も合わせて比べる必要があります。

通信費は端末代も含めて比較する

大手キャリアで端末を購入すると、割引が適用され、実質の端末価格が安くなることが多いです。2018年9月に発売されたiPhoneXS 256Gで比較してみると、docomoで購入した場合14万7096円（税込）ですが、月々2457円の

iPhone XS の端末代

■docomoで購入した場合
147,096円－（割引2,457円×24か月）
＝88,128円※1

■アップルストアで購入した場合　140,184円

差額　52,056円※2

通信費

■docomo　月額8,000円

■mineo　月額5,530円

差額　月額2,470円※3

iPhone XS の端末代＋通信費

■docomoでiPhone XS
通信費　月額8,000円×24か月＝192,000円
端末代　88,128円
2年間合計　280,128円

■mineoでiPhone XS
通信費　月額5,530円×24か月＝132,720円
端末代　140,184円
2年間合計　272,904円

2年間の差額　7,224円※4

割引が24か月適用され、実質の端末価格は8万8128円※1となります。5000円ほどのポイントバックがあることを考えると取得額は約8・3万円と考えることもできます。

格安SIMを利用する場合、アップルストアなどで自分で端末を準備する必要があります。同じくiPhone XS 256Gをアップルストアで購入した場合、14万184円（税込）のため、ポイント付与を除いても5万2056円※2の価格差があります。

この、**端末代の価格差と、通信費の差を合算して比較する必要がある**のです。

MVNOは通話料に注意

docomoで5分以内の通話が無料で、20Gまでの通信ができる契約をしようとすると月額8000円（カケホーダイライトプラン1700円＋ウルトラデータLパック6000円＋インターネット接続サービス300円）。格安SIMを提供するmineoで類するサービスを契約しようとすると月額5530円（Dプラン：デュアルタイプ20G 4680円＋mineoでんわ10分かけ放題850円）になります。mineoは10分無料となるプランですが、専用アプリを立ち上げて発信する必要があります。

2社の通信費の差額は月額2470円※3、2年間で5万9280円（2470円×24か月）になります。先ほどの端末代金の価格差と差し引きをすると、アップルストアで端末を購入しmineoで2年間通信費を支払う方が総額で7224円※4、月額に直すと301円の差で安くなります。この差額を「大手キャリアのまま」と「MVNOに変えること」の価値と比較して、判断することになります。

このように、**高価格帯端末を2年おきに買い換えるケースなどでは大手キャリアによる端末割引の影響が大きく、思ったほど差額が生まれない**という料金構造があります。

mineoは専用アプリで通話が一部無料や割安になるオプションがありますが、アプリを使わずMVNOで通話をすると30秒20円となることも多いです。大手キャリアでは月額2700円で話し放題のプランを提供しているため、月に67・5分（2700円÷20円／30秒）以上の通話をする人も、大手キャリアの方が便利かもしれません（mineo以外のMVNOでも〝LINEでんわ〟や〝楽天でんわ〟などの通話アプリを使うことで固定回線に割安に電話をかけることは可能です）。**「高価格帯スマホを恒常的に使う場合や通話が多い場合は大手キャリア、そうでない場合はMVNOを」**というのが一つの判断の目安になりそうです。

格安SIMでも緊急通報が受け取れるか

もう一つの注意点としては、**Jアラートなどの緊急通報が、Androidの古い端末などとMVNOの組み合わせでは届かない可能性がある**という点です。手持ちの端末のサポートセンタに確認するなどして、現状を把握しておくのが良いでしょう。代替手段として「Yahoo！防災速報」などの通知アプリを入れておくと心強いでしょう。

例えば親が使った端末を子どもに使わせる場合（緊急通報時などは周囲の大人の指示に従うと仮定）や、あえて1～2世代前のモデルを使っている（端末代が安い）場合であれば、比較的シンプルにMVNOのメリットが出せそうです。

MVNOの設定やリサーチが難しそう、2年に1度最新機種を買っている、通話が多いといったいわゆる「大手キャリアの方が有利な人」は、「契約時につけたオプションがつけっぱなしになっている」「マイページなどで確認できるデータ容量の利用実績が2G程度なのに5Gのプランを契約している」といったことが無いようにするだけでも、数千円程度、通信費を抑えられる可能性があります。